View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

関西学院大学リポジトリ
Kwansei Gakuin University Repository

# 2020年度活動報告 CJP授業 ： 漢字・語彙4



| | |
|---|---|
| 著者 | 阿部 秀夫 |
| 雑誌名 | 関西学院大学日本語教育センター紀要 |
| 号 | 10 |
| ページ | 60-61 |
| 発行年 | 2021-03-31 |
| URL | http://hdl.handle.net/10236/00029361 |

# 2020 年度活動報告　CJP 授業：漢字・語彙４

阿部　秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. クラス概要

このクラスは中級前半レベルの学習者を対象としているが、初級後半（総合日本語３）から中級後半（総合日本語５）までの学習者が選択可能である。

授業は週１コマで開講されている。「漢字・語彙」の名の通り、漢字学習ではなく語彙学習として位置づけられており、運用面を視野に入れることがセンターでは求められている。どのような活動を行うかは各教師に任されている。

2020 年春は zoom を利用したオンライ授業を行った。また、課題のやり取りなどでは当大学の授業支援システム「ＬＵＮＡ」を主に利用した。

テキストはセンターのオリジナル教材『トピックで学ぶ・増やす　中・上級の漢字・語彙①』を使用している。このテキストは N1 から N4 レベルの漢字・語彙がトピック毎にまとまっているテキストだが、授業においては N2 から N4 レベルの漢字・語彙を学習範囲としている。しかし学習範囲外であっても、学習者に必要な語彙があれば学習者に紹介している。

## 2. 授業内容

通常は 14 回の授業だが 2020 春学期は新型コロナ感染症への対応のため、授業はオリエンテーション日を除き 10 回で行われた。初めてのオンライン授業と言うこともあり、中間試験・期末試験・クイズは行わず、課題の評価を大きくした。

各課を二日で終了することがセンターとして定められている。例えば３課を導入する日の場合、３課の読み・意味のチェック・学習と２課の読みのチェックと運用練習を行うことになる。学習者は事前に初出の課の漢字・語彙の意味のチェックと読みの確認が事前に求められている。

授業では学習者の予習・復習などの自立・自律学習を要求している。そのために復習教材をＬＵＮＡにアップロードしている。またテキストだけでは伝えきれない例文などを学習者に配布し、より幅広く漢字・語彙の学習ができるようにした。

なお、これもセンターの方針だが漢字語彙が読めることを第一に考えている。また、漢字語を識別でき選択できることを求め、たとえばひらがなを漢字にするようなことは求めていない。これは大学ではレポートをパソコンで執筆することがほとんどであることを反映してのことである。

## 3. 成果と今後の課題

単漢字の学習ではなく語彙として文脈の中で理解し運用することを重視している。今回は急なオンライン授業での開講であり、試行錯誤のところがあった。教師側もオンライン授業に不慣れなため、信頼性を考えクイズや定期試験のオンラインでの実施は避け、評価は提出物とした。

学習者の自宅での自律的な学習を考慮して自習教材や例文を提示したことは既述したが、そのような学習教材を今後も渡していくことでより有効にオンライン授業が進むのではないかと思う。

対面授業ではゲーム的要素（たとえばカルタ形式）を入れていたが、オンラインでは実施できなかった。受講者のアンケートには「アクティビティが増えればもっと楽しくなる」という意見が１件あったが、確かにそうであり、ゲーム的要素などをどのようにオンライン（zoom）でやればいいのかが課題である。

受講者へのアンケートでは不満は特になかったが、授業を進める上で、ネット環境やネット教材、ネットの教務システムに不慣れな受講者への対応がオンラインでしかできないのは課題として残る。特に日本語初級後半の日本語の理解がまだ不十分な受講者への対応が難しく感じた。